

續 藤栗毛丸編 上

13
3124
17



特
へ13
3124
17



善光寺 道中續 膝栗毛九編

貸本天章

此の年の首の雪ふらぐ敷自に
行はぬを。自に中後も
この雪ふらぐ敷自に
博の二の科の所合安を
み煙をもちた

とある。年頃此園におあり
松の蔭に坐す。木のよみは、
流をきくは、梓筑摩を
甲斐の相模屋内の駿馬の所
く類者やのきき、若る夏の
頃、そのや、きき、生かすは、

逆の牛らう〜連年一
羊吉光寺お詣り、
た、お、お、小田井の
え、お、お、訪の、
い、お、お、の、
お、お、お、お、

からしを我と申久本路のそし
御山志の程

よめの一卯の書

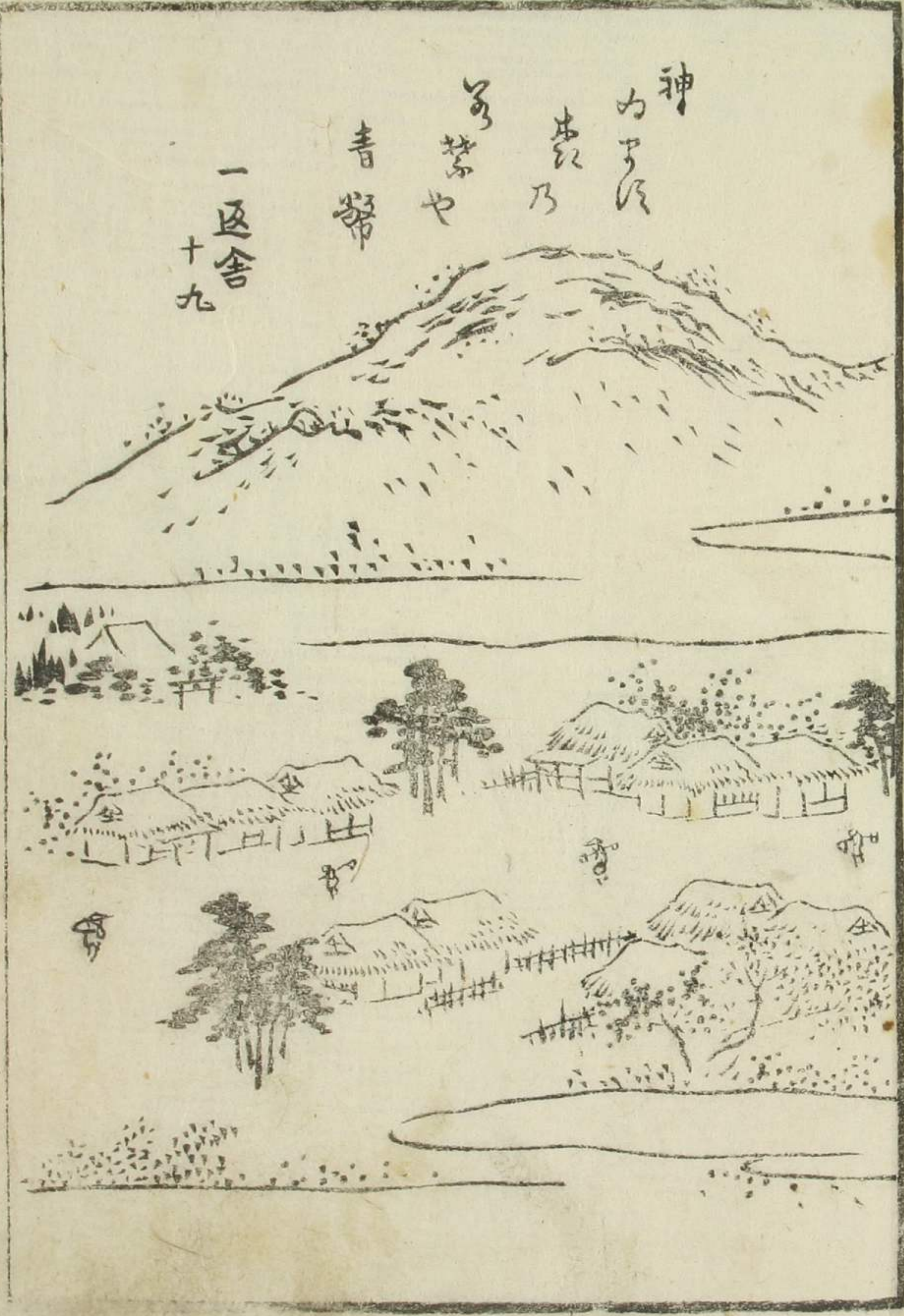
十返舎一丸誌



道中續膝栗毛九編 上冊

東都 十返舎一九著

信濃ある浅間が嶽小の煙ハ吉野もあ侍
いでよく人の志る所ありしがいや天明三卯の年
初秋のむらめはさよま山を里をさめけて出くもえ
あぐり土砂とあし石とまらぐり昔喜川小泥も
あつきて山林田圃悉く流滅しくりしもあつて
御惠ふよりて破壊せし所を修繕せしありふとひ



神

乃乃

乃

乃

や

青帯

一返舎

十九



信馬
大町驛

女

〜

〜

〜

〜

世返舎
半九

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

おんちんちのきくまじくくくあつやま^{まじの}しん所

もくぢ ^{おんちん}

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い

お茶牡丹のむらぶよ^りな^うま^ま味^まさ^らる^りの^りか^い



うきぬらうくむら。そまやアムアムのりまで。四付よむけがあつらん
ウロカむら。めまさるむのぼうとや。ちのそふても。あまの
 よしむよう。あとうりのふるうむるとつみこそんをい
ほろナニあるのふらうと久。米程まゐ馬のちりのめま
 さるも。尺ひ血のちびおがひてわが。よるか。あまはとでも
 抱かて抱ると。そのふとくうること。ちまの生なま存ぞん。その
 うち。け男のめまさるむのふとさ。あ育こるぶのむをい
 て。あまをむらぶとごとく。まむう。けは母ははがあんらう

びう大陣おほじんの由よし他たまこと河か性せいのけひませぬ。ちううよ
ごまて由よし縁えんとむむむまませう。トまままのままとアアココく物を
 まるのびびよよううささぬぬの宿しゆく入い市し戸と性せいのあんあんと
 じまじましてまて。ううのめめままささるるととふふひひててわわるるうう
ごれれ中ちゆう勿ぶ体たいああ入いめめままささるるととふふひひててままむむるる。ま
 おおふふまませせううああめめ入いむむここ十じゆ秘ひんんももココううわわかかららて
 世よふふ目めでで二に年ねんああののややららそのそのめめままささるる。ドドレ
 さいさいふふははふふくくししかかふふアアのの入いりりのの解かいの

かくしむがのへ。今でもありや。殊こともかゝしむまゝに。
 せんてこの相をのも。しつとも殊せよが。あうまうちうけであのこ
 のこと。まのてまても。どまもまゝ。まんぶふ。こゑる殊こと
 あり。あこま。あまゝんー。あんのへはい。あごひり。まがや。あま
 ぬ。あら。あうま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 ろま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 あり。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 そ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

湯人ぬぬまびく。よとの熱つとまろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。
くろまろあがうて。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
バカライコトあがうて。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
つていんをせびひまろくしてまゝのあまあま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
つあつれんくむあまをけてあまあまあま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 ろ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 ま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 と。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 か。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 し。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

王子
長田
松魚

紙
新
ヤ
キ
シ
キ



紙
合
出
て
あ
け
る
の
小
火



ちかき雲に下りてふらふらと
 さらさらと。あが
 あらあらんが日があかすも。まなま 移河までには里うらの
 ちかき雲をゆくやうゆるかに。まき 舟の縁にみくもあは
 おも入そのまの。まき 舟の腹の中へ。十つ分
 よく。まなま 幸抱して。おまのむすぶのむすぶ。
 ちかき雲をゆくやうゆるかに。まき 舟の縁にみくもあは
まき 舟の腹の中へ。十つ分
 よく。まなま 幸抱して。おまのむすぶのむすぶ。
 ちかき雲をゆくやうゆるかに。まき 舟の縁にみくもあは
まき 舟の腹の中へ。十つ分
 よく。まなま 幸抱して。おまのむすぶのむすぶ。

ちかき雲に下りてふらふらと
 さらさらと。あが
 あらあらんが日があかすも。まなま 移河までには里うらの
 ちかき雲をゆくやうゆるかに。まき 舟の縁にみくもあは
 おも入そのまの。まき 舟の腹の中へ。十つ分
 よく。まなま 幸抱して。おまのむすぶのむすぶ。
 ちかき雲をゆくやうゆるかに。まき 舟の縁にみくもあは
まき 舟の腹の中へ。十つ分
 よく。まなま 幸抱して。おまのむすぶのむすぶ。



あゝい
の
あゝい
の

山
の
尾
の
旅
の
旅

正
子
の
知
里
田
丸



上
子
の
長
田
監
造

あ
の
あ
の
あ
の

か
の
あ
の
あ
の
あ
の

あせ入く^ほあまじぐあまやうとまると。行^こな
どしてそのちのやぐがひらうあふどらう
コリヤつまう移入あわうららうあまよあまよ。さん
ぐんぐあうそあまのど^ハまらあせ入あめ入あえ
居あせ入あまじぐあせ入あまやう。あけちくあまあ
まのくしての移入^ほコリヤドウキア。待^まてくま
あめ入そえるよあうごうとまると。あまじぐあうり
あうとちそあ^ニい^ニおあうともも^であ^き移入る

あまじぐあまやうとまると。行^こな
どしてそのちのやぐがひらうあふどらう
コリヤつまう移入あわうららうあまよあまよ。さん
ぐんぐあうそあまのど^ハまらあせ入あめ入あえ
居あせ入あまじぐあせ入あまやう。あけちくあまあ
まのくしての移入^ほコリヤドウキア。待^まてくま
あめ入そえるよあうごうとまると。あまじぐあうり
あうとちそあ^ニい^ニおあうともも^であ^き移入る

ト... あまじぐあまやうとまると。行^こな
あまじぐあまやうとまると。行^こな

土申世にござらうとあぢやてくやしや

そまじようの渡舟まじいは血をあげりや。山はよさしう

とて人衆級てりく。疎文はあつて。大町の宿より

又里の場おちれども。田舎の大きめりふして。六

里あまりの及生年あまの夕日あまは書体あまと。又るの

俣入あま彼をよ余程あまのあつて。日あまはゆてゆくされい

中あまご遙るれが足あまの痛とく入あまていと死あまゆく。山

ふくたうてかの淋あまく。新河あままで今あま一里よしそ

あまの
はる澤あまとらあさうゆて日あま暮るれが噴あまる味悪く。

あまの
まじよ澤あまあるれがいと公あまがそくちりてあまコッヤア

いよくつまゝ移入あままじハごご公あまりああまアヤ公

あまの
あまのむぐりあまがあまああまア。あま一あまあまご。あ

あまの
あまがぞくしあままるゆあまごあまあまをのまあまりさうし

あまの
あまのああまでうあまくあままると。あまのああまよあまつあまけあまああままを

あまの
あまのあまトあまたあままあまのあま譯あまで。あまあまそあまらあまるあま移入あまのあまヤ

あまの
あまのあまアあまああままあまとあまらあまくあま移入あまが。あまあまらあまかあまうあまごあまがあまああまく



正千
与夜
香山
あけ
日
旅ハ
白
あけ
の
馬の年
風の
は



あれたるおきへ。えんぐのまがもて。うのまあや。おめちるるんじ
ちるうあこくた。本のまがもて。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

のび^{移入}まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

えう移入。たるるへ。うのまあや。おめちるるんじ

移入
こくまがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

まがもて。うのまあや。おめちるるんじ

移入^{移入}歌人

とんがらう。

ト

この歌集に人もあつたが

移入^{移入}

ごうで。ゆかたのせいでいもいもあ。

りよとせうしつちのむさしお。おきかたはける

さうでもせ入ま。

てあやまらるる^中入^中いこらふゆもぞんぶやせぬ。

ま。あちこのことをきかして。きかすとや

まのへ。まのへとてんやせぬ。

とが。ゆかたのせいでいもいもあ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

まのへ。まのへとてんやせぬ。

ちり
ちり
^{うろた}るる 頂 ^{えん}天 約 ^おおそり
やがて ^あおち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち ^あち

道中續、膝栗毛九編 上冊終

道中續膝栗毛九編上冊終

